

「ラウンドテーブルしが」について(平成17年度～)

【経過報告 2006.5.30】

実施経過

第1回	テ ー マ	「公共事業におけるNPOと行政との協働」
	日 時	平成17年(2005年)6月2日(木)10:00～12:00
	場 所	滋賀県大津合同庁舎 7階多目的室
	出席者数	・NPO関係者4名 ・県行政関係者10名 ・世話人5名
	協議結果	公共事業を柱として、特に河川管理の分野について協議された。 NPO側からは、将来を見据えた地域活動の取り組みや、地域に根ざし開かれた河川への思いについての意見が提示され、また、県側からも事業実施に際しての地域やNPOからの協力の必要性や、今後の協働についてのNPOとの関わり方についての検討の必要性について意見が提示され相互理解を行った。
第2回	テ ー マ	「都市と農山漁村の交流におけるNPOと行政との協働」
	日 時	平成17年(2005年)7月7日(木)10:00～12:00
	場 所	滋賀県大津合同庁舎 7階多目的室
	出席者数	・NPO関係者4名 ・県行政関係者3名 ・世話人4名
	協議結果	NPO側と行政側で、自然にふれあうことのできる都市と農村交流は、地域の自主性や関係機関団体が協働した情報発信、事業効果として地域活性化の検討、これらを含めた計画性のある仕組みづくりの必要性等について意見交換を行い、相互理解を深めた。
第3回	テ ー マ	「コミュニティビジネスにおけるNPOと行政との協働」
	日 時	平成17年(2005年)8月4日(木)10:00～12:00
	場 所	滋賀県大津合同庁舎 7階多目的室
	出席者数	・NPO関係者7名 ・県行政関係者3名 ・世話人4名 ・市町職員3名
	協議結果	協働には双方の理解と明確な役割分担が重要だと確認を行った。 コミュニティビジネス(地域貢献等)を行うNPO等に関する融資制度の必要性や、支援の仕組みづくりについての検討が必要であると相互理解を深めた。
第4回	テ ー マ	「都市と農山漁村の交流における計画的な仕組みづくりについて」
	日 時	平成17年(2005年)9月13日(火)18:30～20:30
	場 所	滋賀県大津合同庁舎 7階多目的室
	出席者数	・NPO関係者4名 ・県行政関係者3名 ・世話人2名
	協議結果	第2回目のラウンドテーブルの意見結果を基本に、都市と農村との交流におけるグリーンツーリズムの定義、推進するにあたっての地域とNPOとの築き合いや、それらを取りまとめるコーディネートの必要性について協議を行い、NPO側と行政側でより一層の相互理解を深めた。
第5回	テ ー マ	「人と地域がともに輝く生涯学習社会づくりについて」
	日 時	平成17年(2005年)10月28日(金)10:00～12:00
	場 所	滋賀県大津合同庁舎 7階多目的室
	出席者数	・NPO関係者2名 ・県行政関係者3名 ・世話人5名 ・市町職員1名
	協議結果	生涯学習社会づくりを進めていくためには、地域やNPOなど関係機関団体が協働した情報発信やサポート体制の充実、また、事業効果の把握など計画性のある仕組みづくりの必要性等について出席者全員が意見交換を行い、相互理解を深めた。

第6回	テ ー マ	「生涯学習の推進に向けてNPOの役割と行政との協働取組について」	
	日 時	平成17年(2005年)12月26日(月)10:00~12:00	
	場 所	滋賀県庁別館2階 大ホール	
	出席者数	・NPO関係者8名 ・県行政関係者3名 ・世話人2名 ・市町職員1名	
	協議結果	<p>生涯学習を推進する情報管理、提供のあり方について第5回ラウンドテーブルの意見結果をより具体的に協議された。</p> <p>協働した情報管理、提供を推進するため、県、市町、地域、NPOとが各自の役割を重視し、それらを取りまとめる機関として中間支援センターを活用したシステムの構築や、生涯学習版ラウンドテーブルのような課題抽出に向けて話し合う場の必要性について議論を深めた。</p>	
第7回	テ ー マ	「琵琶湖の水環境保全のための協働について」	
	日 時	平成18年(2006年)2月3日(金)10:00~12:00	
	場 所	滋賀県庁別館4階 しが協働ル～ム	
	出席者数	・NPO関係者6名 ・県行政関係者4名 ・世話人4名	
	協議結果	<p>琵琶湖の水環境保全のために、NPOや県行政等の様々な主体が取り組みを行ってきたが、今後における更なる取り組みのためには、協働を行うための目標設定にあたって計画段階からの話し合いや実施時の役割分担、そして地域が常時参加できる仕組み作りが必要であると話し合いを行った。</p> <p>また、地域におけるNPO活動を持続するための財政面の難しさについても、NPO全体の課題として意見が出された。</p>	
第8回	テ ー マ	「地域で共に働き・暮らす自立と共生の社会づくりについて」	
	日 時	平成18年(2006年)6月14日(水)10:00~12:00	
	場 所	滋賀県庁別館4階 しが協働ル～ム	
	その他(開催依頼など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働推進ボード 「協働評価システム」</li> <li>・県民生活課 「地域防犯」</li> <li>・都市計画課 「滋賀の景観指針」</li> <li>・農政課 「農業施策」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産課 「湖(うみ)づくり活動」</li> <li>・企画調整課 「2030年 滋賀のあり方」</li> <li>・教育委員会 「滋賀県の教育方針」</li> </ul>

## ■ 開催風景



## 成果と課題（事務局意見）

### ～ 成 果 ～

- ・ N P O、行政双方より「相手の考え思いを聞く事ができて大変参考になった」との意見があった。
- ・ ラウンドテーブルでの出会いから N P Oと行政との関係構築が一部見られた。  
( 農業振興課：グリーンツーリズム研究会 )
- ・ 行政各課より開催依頼が増えている。このシステムが確実に周知されていると見られる。

### ～ 課 題 ～

- ・ テーマ設定について、行政側からのみの提案となっている。N P O側からのテーマ募集は行わなかった。  
1 8年度（4回以降）から、N P O、行政双方から募集予定。
- ・ ラウンドテーブル開催自体をパブリックコメントの代わりなど本来の目的外に行政各課が使っているのではと疑問を感じる時がある。  
ラウンドテーブルの趣旨を徹底する。
- ・ ラウンドテーブルから協働ルームへの繋がりなど、協働の成果を積み上げる具体的な仕組みづくりが必要である。  
追跡調査や協働ル～ムへの呼びかけを実施する。
- ・ 世話人の開催に向けての意識の差が見られた。（開催重視、議論の目的重視）  
開催趣旨の共有化を図る。